

事業概要

<背景> JR大阪駅の北側に位置する「うめきた地区」は、広さ約24haの旧梅田貨物駅の跡地であり、2002年に「都市再生緊急整備地域」指定、2012年に「特定都市再生緊急整備地域」の指定を受け、まちづくりを進めてきた。先行区域約7haは「グランフロント大阪」として2013年4月に開業、現在残る約17haにおいて「うめきた2期区域」の開発を進めている。

<事業内容> 2015年3月「うめきた2期区域まちづくりの方針」を策定し「みどりとイノベーションの融合拠点」という目標を設定。これに基づき事業者公募を実施し、提案内容を踏まえ3つの基盤整備事業、「JR東海道線支線地下化(連続立体交差事業)・新駅設置事業」「土地区画整理事業」「都市公園事業(防災公園街区整備事業)」及び選定された事業者による「民間開発事業」を実施している。

<課題となっていた点> 関西の発展を牽引するリーディングプロジェクトとして、地球環境問題や大規模災害の対応はもとより世界水準の都市空間を持つ都市となるよう、公民連携まちづくりを推進する必要がある。



《開発前のうめきた地区の状況(2004年)》

技術の概要

【新しい技術】 ◆公民連携のまちづくりプロセス

◆公民連携による公共空間のグレードアップ

【使える技術】 ◆施工計画や景観等検証におけるデジタル技術の活用

◆土壌汚染対策に係る情報整理システム

◆様々な環境技術の導入

【成し遂げた技術】

◆多くの工事の全体最適化を図る建設マネジメント

【喜ばれる技術】

◆区域一体的なランドスケープデザイン

◆大規模災害に対応可能な機能の導入

◆自律的・持続的なエリアマネジメント



ランドフォーム(丘)

南北の公園をつなぐ地形のデザイン

多目的な賑わいの広場の核

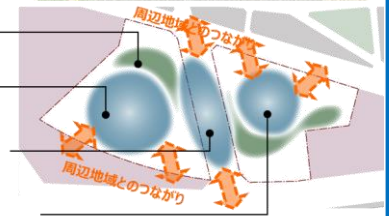
新駅に近く、大規模イベントにも対応した賑わいの核

南北の公園を賑わいでつなぐ

先行開発区域からつながる賑わい軸(道路空間)を活用した広場的空間

自然共生型の広場の核

森や水・光に癒されながら、季節の花を楽しむなどの利用を通じた自然とのつながり



《周辺地域につながるランドスケープデザイン》

成果

世界水準の新しい都市空間を目指し、計画策定段階から基盤・施設整備や管理運営まで一連のまちづくりを公民連携で進め、2024年9月に先行まちびらきを迎えた。これまでに、国際的知名度の向上、地区内への様々な企業・研究機関の集積、周辺地価への好影響に加え、幅広い年齢層が集い、脱炭素型の都市づくりや良質な緑地整備・マネジメント計画等も高く評価されるなど、エリア価値の向上に大きく寄与している。引続き都市公園等の残工事を進め、2027年度に全体まちびらきを予定している。



《うめきた2期区域の全景(2024年) UR都市機構》